

[選択項目] 年度：1991～2023 年 大学：島根大

0.1 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ について、以下の間に答えよ。

- (1) 行列式 $|A|$ を第 1 列について余因数展開して、2 行 2 列の行列式にして計算せよ。
- (2) 行列 A の逆行列を求めよ。
- (3) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル x_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ。
- (4) 適当な行列 P と相似変換 ($P^{-1}AP$) を利用して、 A を対角化せよ。

(島根大 2005) (m20055801)

0.2 非負の整数 x, y に対して関数 f を次のように定義する。

$$\begin{cases} f(0, y) = y + 1 \\ f(x + 1, 0) = f(x, 1) \\ f(x + 1, y + 1) = f(x, f(x + 1, y)) \end{cases}$$

- (1) $f(1, 3)$ の値を計算せよ。ただし、その計算過程も示せ。
- (2) $f(0, y) = y + 1$ の例のように、 y に関する多項式として $f(1, y)$ を表現せよ。そして、その正しさを帰納法により示せ。
- (3) $f(x, y) \geq x + y + 1$ であることを示せ。

(島根大 2005) (m20055802)

0.3 行列 $\begin{pmatrix} 1 & a & b \\ a & 1 & c \\ b & c & 1 \end{pmatrix}$ の階数が 1 となる (a, b, c) の組を、すべて求めよ。

(島根大 2005) (m20055803)

0.4 次の行列式の値を求めよ。

$$\begin{vmatrix} 0 & a & b & c \\ a & 0 & b & c \\ a & b & 0 & c \\ a & b & c & 0 \end{vmatrix}$$

(島根大 2005) (m20055804)

0.5 \mathbf{R}^n のベクトル $\mathbf{x} = (x_1, x_2, \dots, x_n)$ で $x_1 + 2x_2 + \dots + nx_n = 0$ を満たすもの全体の集合 W は \mathbf{R}^n の線形部分空間となることを示し、その基底を一組求めよ。

(島根大 2005) (m20055805)

0.6 逆正弦関数 $\sin^{-1} x$ と逆余弦関数 $\cos^{-1} x$ について、次の問いに答えよ。

- (1) 次の値を求めよ。
 (i) $\sin^{-1}(-1)$, (ii) $\cos^{-1} 0$, (iii) $\sin^{-1} \frac{1}{\sqrt{2}}$, (iv) $\cos^{-1} \left(-\frac{1}{2}\right)$
- (2) $\sin^{-1} x + \cos^{-1} x = \frac{\pi}{2}$ であることを示せ。
- (3) $y = \sin^{-1} x$ の微分と不定積分を求めよ。
- (4) $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{n^2 - k^2}}$ の値を求めよ。

0.7 逆正弦関数 $\sin^{-1} x$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 極限值 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{\sin^{-1}(x^2 + y^2)}{x^2 + y^2}$ を求めよ.
- (2) $z = \sin^{-1}(xy)$, $x = \sin(u + v)$, $y = \sin(u - v)$ とするとき、合成関数の偏微分 $\frac{\partial z}{\partial u}$ と $\frac{\partial z}{\partial v}$ を変数 u と v を用いて表せ.

(島根大 2005) (m20055807)

0.8 関数

$$f(x) = a^2 x^2 - b(x + 1) + \sin ax + \cos ax$$

について、以下の設問に答えよ. ただし、 a, b は実数である.

- (1) 第1次導関数 $f'(x)$ および第2次導関数 $f''(x)$ を導け.
- (2) 全ての实数 x に対し、 $f''(x) > 0$ であることを示せ.
- (3) 設問(2)の結果から、 $f'(x)$ は増加関数であることがわかる. このとき、領域 $x > 0$ において、 $f'(x) > 0$ が成立するためには a と b の間にどのような関係があればよいか. 関係式を導け.
- (4) 設問(3)の条件のもとで、領域 $x > 0$ において $f(x) > 0$ が成立するためには、さらにどのような条件が必要か.

(島根大 2005) (m20055808)

0.9 行列 $\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ について、以下の設問に答えよ.

- (1) 行列 \mathbf{A} の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし、固有ベクトルの第1成分の大きさが1となるように定めよ.
- (2) 設問(1)で求めた固有ベクトルと、それらを行列 \mathbf{A} によって1次変換したベクトルを、直交座標系 $O - xy$ 上に原点 O を始点として描け.
- (3) ある四辺形を行列 \mathbf{A} によって1次変換した像が、 $(1, 1)$, $(-1, 1)$, $(-1, -1)$, $(1, -1)$ を頂点とする正方形になった. 変換前の四辺形のすべての頂点を求め、その四辺形を直交座標系 $O - xy$ 上に描け.
- (4) 設問(3)で求めた四辺形の面積を求めよ.

(島根大 2005) (m20055809)

0.10 次の問いに答えよ.

- (1) 次の連立1次方程式が解をもつような a, b の値を求めよ. また、その時の解も求めよ.

$$\begin{cases} x_1 + 2x_3 - x_4 = 1 \\ 3x_1 + x_2 + 5x_3 + x_4 = 1 \\ -4x_1 + 2x_2 - 10x_3 + 12x_4 = a - 7 \\ 2x_1 - x_2 + 5x_3 - 6x_4 = b + 2 \end{cases}$$

- (2) 次の連立1次方程式が自明でない解をもつような a の値を求めよ.

$$\begin{cases} ax_1 + x_2 + x_4 = 0 \\ x_1 + (a + 2)x_2 + 2x_3 - x_4 = 0 \\ -x_1 + ax_3 + x_4 = 0 \\ 4x_1 - x_2 + 3x_3 + 2ax_4 = 0 \end{cases}$$

(3) 次の解空間の次元と 1 組の基を求めよ.

$$W = \left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^5 \mid \begin{cases} x_1 - 2x_2 + x_3 + 2x_4 + 3x_5 = 0 \\ 2x_1 - 4x_2 + 3x_3 + 3x_4 + 8x_5 = 0 \end{cases} \right\}$$

(島根大 2005) (m20055810)

0.11 関数 $f(x) = (ax + b)e^{cx}$ ($c \neq 0$) を考える. 以下の問に答えよ.

(1) 不定積分 $\int f(x)dx$ を求めよ.

(2) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$, 2 階導関数 $f''(x)$, さらに n 階導関数 $f^{(n)}(x)$ ($n = 1, 2, \dots$) を求めよ.

(3) $0 < c < 1$ のとき, $\lim_{n \rightarrow \infty} nc^n = 0$ を証明せよ.

(ヒント : $c = \frac{1}{1+\alpha}$ ($\alpha > 0$) とおいて $(1+\alpha)^n$ の 2 項展開を考えよ.)

(4) $0 < c < 1$ のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (f(x) + f'(x) + f''(x) + \dots + f^{(n)}(x))$$

を求めよ.

(島根大 2005) (m20055811)

0.12 次の問に答えよ.

(1) 次の関数の 2 次偏導関数を求めよ.

(a) $z = 2x^3 - 3x^2y + 4xy^2$

(b) $z = \sin(2x + 3y)$

(2) $z = f(x, y)$, $y = g(x)$ のとき, 次の式を証明せよ.

$$\frac{dz}{dx} = f_x + f_y \frac{dy}{dx}$$

(島根大 2005) (m20055812)

0.13 次の問に答えよ.

(1) 原点 O を中心とし, 半径 a の円の上半分を D とする. 次の 2 重積分を求めよ ($a > 0$).

$$I = \iint_D y \, dx dy$$

(2) 平面 $z = y$ と xy 平面の間で, xy 平面上の半円 $x^2 + y^2 \leq a^2$, $y \geq 0$, $z \geq 0$ の上にある立体の体積 V を求めよ ($a > 0$).

(島根大 2005) (m20055813)

0.14 以下の設問に答えよ.

(1) 次の定積分の値を求めよ.

(a) $\int_0^{\pi/2} \sin x dx$

(b) $\int_0^{\pi/2} \sin^2 x dx$

- (2) $n \geq 3$ の整数 n に対し, $\sin^n x = \sin^{n-1} x \cdot \sin x$ の関係を用いて, 部分積分を行うことにより, 次の等式が成立することを示せ.

$$\int_0^{\pi/2} \sin^n x dx = (n-1) \int_0^{\pi/2} (\sin^{n-2} x - \sin^n x) dx$$

- (3) 設問 (1) および (2) の結果を用いて, 次の定積分の値を求めよ.

(a) $\int_0^{\pi/2} \sin^3 x dx$ (b) $\int_0^{\pi/2} \sin^4 x dx$

(島根大 2005) (m20055814)

0.15 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -5 \\ -3 & 4 \end{pmatrix}$ について, 以下の設問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
- (2) 固有値 λ_1, λ_2 それぞれに対応する固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を, 長さ 1 となるように求めよ.
- (3) 設問 (2) で求めた $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を列ベクトルとみなして構成された行列 $P = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2)$ と, その逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (4) P, P^{-1} を用いて A を対角行列に変換せよ.

(島根大 2005) (m20055815)

0.16 $z = \sin xy$ について, 次の問に答えよ.

- (1) $\frac{\partial z}{\partial x}$ を求めよ. (2) $\frac{\partial z}{\partial y}$ を求めよ. (3) $\frac{\partial^2 z}{\partial x^2}$ を求めよ. (4) $\frac{\partial^2 z}{\partial x \partial y}$ を求めよ.

(島根大 2006) (m20065801)

0.17 $u = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ x & y & z \\ x^2 & y^2 & z^2 \end{vmatrix}$ について, 次の問に答えよ.

- (1) 行列式の値 u を求めよ. (2) $\frac{\partial u}{\partial x}$ を求めよ. (3) $\frac{\partial u}{\partial y}$ を求めよ.
- (4) $\frac{\partial u}{\partial z}$ を求めよ. (5) $\frac{\partial^2 u}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial z^2}$ を求めよ.

(島根大 2006) (m20065802)

0.18 次の行列式の値を求めよ.

(1) $\begin{vmatrix} 1 & 12 & 123 \\ 12 & 123 & 1234 \\ 123 & 1234 & 12345 \end{vmatrix}$ (2) $\begin{vmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 2 & 1 & 5 \\ 3 & 3 & 2 & 8 \\ 4 & 5 & 4 & 10 \end{vmatrix}$

(島根大 2006) (m20065803)

0.19 a, b, c を 0 でない実数とする. このとき, 行列 $\begin{pmatrix} 1 & a & a^2 \\ 1 & b & b^2 \\ 1 & c & c^2 \end{pmatrix}$ の階数が 2 となるための必要十分条件を求めよ.

(島根大 2006) (m20065804)

0.20 4次元ベクトル空間 R^4 のベクトル $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k$ に対して, これらの 1 次結合の全体を $\langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k \rangle$ で表すことにする. このとき, 次の問に答えよ.

(1) $\langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k \rangle$ は \mathbf{R}^4 の部分空間であることを示せ.

(2) \mathbf{v} が $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k$ の 1 次結合であるなら, $\langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k, \mathbf{v} \rangle = \langle \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k \rangle$ であることを示せ.

$$(3) \mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} -1 \\ 7 \\ 3 \\ 11 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_4 = \begin{pmatrix} 2 \\ -5 \\ 0 \\ -7 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_5 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

とすると, $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4, \mathbf{v}_5 \rangle$ の基底を 1 組求めよ.

(島根大 2006) (m20065805)

0.21 関数 $f(x) = e^{-x}(\sin x + \cos x)$ の極値を調べよ.

(島根大 2006) (m20065806)

0.22 $\{\alpha_n\}, \{\beta_n\}$ を収束数列とする. いま, $n > N$ なるすべての自然数に対して $\alpha_n \leq \beta_n$ が成り立つような十分大きな自然数 N が存在する時, $\lim_{n \rightarrow \infty} \alpha_n \leq \lim_{n \rightarrow \infty} \beta_n$ であることを証明せよ.

(島根大 2006) (m20065807)

0.23 f を微分可能な関数とする. このとき, x の関数 $G(x) = \int_a^x (x-u)\{f'(u) + f(u)\}du$ を微分せよ.

(島根大 2006) (m20065808)

0.24 次の広義積分を求めよ.

$$(1) \int_1^2 \frac{1}{\sqrt{x-1}} dx \quad (2) \int_1^\infty \frac{1}{x^2} dx \quad (3) \int_{-\infty}^\infty \frac{1}{1+x^2} dx$$

(島根大 2006) (m20065809)

0.25 $f(x, y)$ を C^2 級の関数とし, θ を定数として $x = u \cos \theta - v \sin \theta$, $y = u \sin \theta + v \cos \theta$ とする.

$$(1) \frac{\partial f}{\partial u} \text{ と } \frac{\partial f}{\partial v} \text{ を求めよ.} \quad (2) \frac{\partial^2 f}{\partial u^2} + \frac{\partial^2 f}{\partial v^2} \text{ を } \frac{\partial^2 f}{\partial x^2} \text{ と } \frac{\partial^2 f}{\partial y^2} \text{ を用いて表せ.}$$

(島根大 2006) (m20065810)

0.26 $A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 2 & 3 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix}$ に対して次の (a)~(e) を求めよ.

$$(a) A^T, \quad (b) AA, \quad (c) |A|, \quad (d) A \text{ の階数}, \quad (e) A^{-1}$$

ただし, A^T は A の転置行列を表す. $|A|$ は A の行列式である.

(島根大 2006) (m20065811)

0.27 次の線形方程式の解 \mathbf{x} 全体の集合を求めよ. $\begin{bmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 1 \end{bmatrix} \mathbf{x} = \begin{bmatrix} 2 \\ -2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$

(島根大 2006) (m20065812)

0.28 次の行列の固有ベクトルを求め, この行列を対角化せよ. $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ i & i \end{bmatrix}$

ただし, i は虚数単位である.

(島根大 2006) (m20065813)

0.29 (1) $f(x) = Ae^{-kx^2}$ について $\frac{d}{dx} f(x)$ および $\frac{d^2}{dx^2} f(x)$ を求めよ.

(2) $f(x) = Ae^{-kx^2}$ が微分方程式 $\left(\frac{d^2}{dx^2} - 4k^2 x^2\right) f(x) = Cf(x)$ を満たすとき, C を求めよ.

(島根大 2006) (m20065814)

0.30 (1) $\phi(x, y, z) = \frac{x^2}{2} + xy - z$ について $\nabla\phi = \left(\frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial y}, \frac{\partial}{\partial z} \right) \phi$ を求めよ.

(2) ベクトル場 $\mathbf{A}(x, y, z) = (A_x, A_y, A_z) = (-y^3, x^3, 0)$ について,

$$\nabla \times \mathbf{A} = \left(\frac{\partial A_z}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial z} \right) \mathbf{i} + \left(\frac{\partial A_x}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial x} \right) \mathbf{j} + \left(\frac{\partial A_y}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial y} \right) \mathbf{k}$$

を求めよ. ただし, $\mathbf{i}, \mathbf{j}, \mathbf{k}$ はそれぞれ x, y, z 方向の単位ベクトルを表す.

(島根大 2006) (m20065815)

0.31 $e^x \cos x$ の不定積分を求めよ.

(島根大 2006) (m20065816)

0.32 $A = \begin{bmatrix} 1 & x & y & z \\ 2 & 3 & 4 & 1 \\ 3 & 4 & 1 & 2 \\ 4 & 1 & 2 & 3 \end{bmatrix}$ とおく. このとき,

(1) A の行列式を求めよ.

(2) $x = y = z = 1$ のとき, A の逆行列を求めよ.

(島根大 2007) (m20075801)

0.33 3次元実ベクトル空間 \mathbb{R}^3 の4つのベクトルを

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_4 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ 4 \end{bmatrix} \text{ とする. このとき,}$$

(1) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ は1次独立であることを示せ.

(2) \mathbf{a}_4 を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ の1次結合で表せ.

(島根大 2007) (m20075802)

0.34 4次元実ベクトル空間 \mathbb{R}^4 の部分集合 W を次のように定める:

$$W = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 : x - y - 3z + 2w = 0 \text{ であり, かつ } 2x - y + z + w = 0 \text{ である.} \right\}$$

(1) W は \mathbb{R}^4 の部分空間であることを示せ.

(2) W の基底を一組求めよ.

(島根大 2007) (m20075803)

0.35 関数 $f(x) = \frac{1 + 2 \sin x}{2 - \sin x}$ の最小値と最大値を求めよ. また, $f(x)$ は $0 \leq x \leq 2\pi$ において2つの変曲点をもつことを示せ.

(島根大 2007) (m20075804)

0.36 (1) 関数 $\frac{\log x}{x}$ の不定積分を求めよ.

(2) $\lim_{n \rightarrow +\infty} \int_n^{2n} \frac{\log x}{x} dx$ は正の無限大に発散することを示せ.

(3) 級数 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{\log n}{n}$ が収束するならば, その極限値を求めよ. もし発散するならば, その理由を述べよ.

(4) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$ をみたす数列 a_n に対して $b_n = a_n + a_{n+1} + \cdots + a_{2n}$ とおくと, $\lim_{n \rightarrow \infty} b_n = 0$ は正しいだろうか? 正しければその理由を述べよ. もし正しくなければ反例を一つ与えよ.

(島根大 2007) (m20075805)

0.37 $z = \frac{x^2 - y^2}{x^2 + y^2}$, $x = e^{u+v}$, $y = e^{u-v}$ のとき, $\frac{\partial z}{\partial u}$ と $\frac{\partial z}{\partial v}$ を求めよ.
(島根大 2007) (m20075806)

0.38 $u = 3x + y$, $v = x - 3y$ と変数変換することにより, 2重積分 $\iint_D x dx dy$, $D = \{(x, y) : 0 \leq 3x + y \leq 1, -1 \leq x - 3y \leq 0\}$ を求めよ.
(島根大 2007) (m20075807)

0.39 n の関数 $f(n) = \int_0^\infty x^{n-1} e^{-x} dx$ について, 以下の設問に答えよ.
(1) $f(1)$ の値を求めよ. (2) $f(n+1) = n f(n)$ を証明せよ.
(3) n が自然数のとき, $f(n+1) = n!$ を証明せよ. (4) $f(\frac{1}{2}) = 2 \int_0^\infty e^{-x^2} dx$ を証明せよ.
(5) $\frac{f(3)f(-\frac{5}{2})}{f(\frac{3}{2})}$ の値を求めよ. なお, $f(\frac{1}{2}) = \sqrt{\pi}$ である.
(島根大 2007) (m20075808)

0.40 任意定数 a を含む行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 5 \\ 2 & 2 & 1 \\ 4 & 4 & a \end{bmatrix}$ について, 以下の設問に答えよ.
(1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
(2) 逆行列 A^{-1} を求めよ. さらに, $A^{-1}A$ が単位行列となることを示せ.
(3) 行列 A の階数 $\text{rank} A$ を求めよ.
(4) 連立一次方程式 $Ax = \mathbf{b}$ において, 解 \mathbf{x} がただ一つ求められる条件を示せ. さらに, その条件を満たす場合, $Ax = \mathbf{b}$ を解いて, \mathbf{x} を求めよ. ただし, $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ である.
(5) 連立一次方程式 $Ax = \mathbf{0}$ において, \mathbf{x} が $\mathbf{0}$ 以外の解を持つ条件を示せ. さらに, その条件を満たす a の値を用いて \mathbf{x} を求めよ. ただし, \mathbf{x} の大きさは 1, すなわち $|\mathbf{x}| = 1$ とせよ.
(島根大 2007) (m20075809)

0.41 次の関数 u は方程式 $\frac{\partial^2 u}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial z^2} = 0$ を満たすことを示せ.
(1) $u = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ x & y & z \\ x^2 & y^2 & z^2 \end{vmatrix}$ (2) $u = \frac{1}{\sqrt{x^2 + y^2 + z^2}}$
(島根大 2007) (m20075810)

0.42 $u = u(x, t) = \frac{1}{2\sqrt{\pi t}} e^{-\frac{x^2}{4t}}$ であるとき, $\int_0^\infty e^{-x^2} dx = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ を用いて次式 $\int_{-\infty}^\infty u(x, t) dx = 1$ が成り立つことを示せ. ただし, t はパラメータ (> 0) とする.
(島根大 2007) (m20075811)

0.43 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & -1 & 1 \\ -1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.
(1) 行列式 $|A|$ を第 1 列について余因数展開して, 2 行 2 列の行列式にして計算せよ.

- (2) 行列 A の逆行列を求めよ.
 (3) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル x_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ.
 (4) 行列 A の階数を求めよ.

(島根大 2007) (m20075812)

0.44 関数 $y = \frac{1}{2}x^2e^{-x}$ の増減・凹凸に関する以下の問いに答えよ.

- (1) 関数 y の導関数 y' および 2 階導関数 y'' を求めよ.
 (2) 関数 y の変曲点における x 座標を求めよ.
 (3) 関数 y が極小となるときの x の値 x_{\min} と極小値 y_{\min} , および, 関数 y が極大となるときの x の値 x_{\max} と極大値 y_{\max} を求めよ.
 (4) 極小点, 極大点, および変曲点を考慮して関数 y のグラフを描け.

(島根大 2007) (m20075813)

0.45 一般に, 関数 $f(x)$ が周期 2π の周期関数で, 区間 $[-\pi, \pi]$ でいくつか (有限個) の点を除いて連続であるとき, 次のように三角関数の級数に展開できる. これを $f(x)$ のフーリエ級数という.

$$f(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

$$a_0 = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) dx, \quad a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nxdx, \quad b_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nxdx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

周期 2π の周期関数 $f(x)$ が

$$f(x) = \begin{cases} -2x & (-\pi \leq x \leq 0) \\ 2x & (0 < x \leq \pi) \end{cases} \quad \text{のとき, } f(x) \text{ のフーリエ級数を求めよ}$$

(島根大 2007) (m20075814)

0.46 次の微分方程式について, 以下の設問に答えよ.

$$\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t) \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

ただし, $x(t) = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{bmatrix}$, $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$, $x(0) = \begin{bmatrix} 2 \\ 0 \end{bmatrix}$ である.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
 (2) 行列 A の固有ベクトル ν_1, ν_2 を求めよ.
 (3) 行列 $T = [\nu_1, \nu_2]$ とする $x(t) = Ty(t)$ の変換によって, ① を $y(t)$ に関する微分方程式に変形せよ. ただし, $y(t) = \begin{bmatrix} y_1(t) \\ y_2(t) \end{bmatrix}$ である.
 (4) 設問 (3) で求めた $y(t)$ に関する微分方程式を解け.
 (5) 設問 (4) で求めた解 $y(t)$ を用いて, ① の解 $x(t)$ を求めよ.

(島根大 2007) (m20075815)

0.47 (1) 次の行列式の値を求めよ.

$$\begin{vmatrix} 5 & -2 & 2 & 1 \\ 2 & 3 & -1 & 3 \\ -5 & 4 & 2 & 3 \\ 1 & 1 & 4 & 2 \end{vmatrix}$$

(2) a を実数とし,

$$A = \begin{pmatrix} a & -3 & 1 & 1 \\ 5 & -8 & 3 & a \\ -1 & 3 & -2 & 1 \end{pmatrix}$$

とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (a) A の階数が 2 となるような a の値を求めよ.
- (b) $V = \{v \in \mathbf{R}^4 \mid Av = 0\}$, $W = \{Av \mid v \in \mathbf{R}^4\}$ とおく. このとき, V は \mathbf{R}^4 の部分空間, W は \mathbf{R}^3 の部分空間であることを示せ.
- (c) (a) のとき, V, W の基底を一組ずつ求めよ.
- (d) (a) のとき, $\{v_1, v_2\}$ を V の任意の基底とする. また, W の任意の基底 $\{w_1, w_2\}$ に対して, $v_3, v_4 (\in \mathbf{R}^4)$ を

$$w_1 = Av_3, \quad w_2 = Av_4$$

となるような任意のベクトルとする. このとき, $\{v_1, v_2, v_3, v_4\}$ は \mathbf{R}^4 の基底であることを示せ.

(島根大 2008) (m20085801)

0.48 (1) 次の関数の第 3 次導関数を求めよ. $x^2 \sin x$

(2) 次の級数が収束することを示せ. $\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n \frac{1}{n}$

(3) 次の積分を求めよ. $\int_0^1 \sin^{-1} x \, dx$

(島根大 2008) (m20085802)

0.49 次の問いに答えよ. a, b, c はすべて正の数とする.

- (1) 3次元空間において頂点 $P(a, 0, 0), Q(0, b, 0), R(0, 0, c)$ をもつ三角形の面積 S を求めよ.
- (2) 3次元空間において頂点 $O(0, 0, 0), P, Q, R$ をもつ四面体の体積を V とする. (1) で求めた S と V との比 S/V を考える. a, b, c が $abc = 1$ をみたしながら変化するときの S/V の最小値を求めよ.

(島根大 2008) (m20085803)

0.50 次の重積分を求めよ. a は正定数とする. $\iint_D y \, dx \, dy$ ただし D は (x, y) -平面内にある円 $(x-a)^2 + y^2 \leq a^2$ の上半分, すなわち $y > 0$ を満たす部分である.

(島根大 2008) (m20085804)

0.51 コンピュータやネットワークの技術の発展により, 我々の生活はより便利で快適なものになってきた. その一方で, それらに関連する事件 (例えば, ファイル共有アプリケーションによる機密情報の流出, 出会い系サイトがらみのトラブル等) も多数発生している. 以下の問いに答えよ.

- (1) コンピュータやネットワークの技術に関連する事件としてどのようなものがあるか, 2つ挙げ, それぞれ 100 文字程度で説明せよ. ただし, 上記の文中で例として挙げたものは除く.
- (2) 小問 (1) で挙げた事件に巻き込まれないためには, どのような対策が必要か, それぞれ 100 文字程度で説明せよ.

(島根大 2008) (m20085805)

0.52 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) 行列 A の階数を求めよ.
- (3) 行列 A の逆行列を求めよ.
- (4) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル \mathbf{x}_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ.

(島根大 2008) (m20085806)

0.53 次の関数 $u = u(x, y, z)$ について $\frac{\partial^2 u}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial z^2}$ の値を求めよ.

$$(1) u = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2x & 2y & 2z \\ 3x^2 & 3y^2 & 3z^2 \end{vmatrix} \quad (2) \frac{2}{\sqrt{x^2 + y^2 + z^2}}$$

(島根大 2008) (m20085807)

0.54 次の重積分を求めよ.

$$(1) \int_1^3 \int_1^2 (2xy - x^2) dy dx \quad (2) \int_0^1 \int_0^{2y} y^2 e^{xy} dx dy$$

(島根大 2008) (m20085808)

0.55 関数 $f(x) = \frac{1}{1+x^2}$ について、以下の設問に答えよ.

- (1) $y = f(x)$ のグラフを xy 平面上に描け.
- (2) 曲線 $y = f(x)$ と x 軸で囲まれる面積を求めよ. ただし, $x = \tan t$ なる変数変換を用いて, 積分計算の過程も示せ.
- (3) x^4 までの項で表した $f(x)$ のマクローリン展開式は $f(x) \cong 1 - x^2 + x^4$ であることを導け.
- (4) 設問 (3) の結果を利用して, 次の近似式を導け.

$$\tan^{-1} x \cong x - \frac{1}{3}x^3 + \frac{1}{5}x^5 \quad (\text{ただし, } |x| < 1)$$

(島根大 2008) (m20085809)

0.56 2つのベクトル $\mathbf{a} = 2\mathbf{i} - \mathbf{j} + \mathbf{k}$, $\mathbf{b} = -3\mathbf{i} + 2\mathbf{j} + \mathbf{k}$ がある. 以下の設問に答えよ. ただし, 互いに直交する x 軸, y 軸, z 軸方向の単位ベクトルをそれぞれ \mathbf{i} , \mathbf{j} , \mathbf{k} とする.

- (1) 内積 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ を求めよ.
- (2) ベクトル \mathbf{a} とベクトル $\mathbf{b} - m\mathbf{a}$ が垂直となる m の値を求めよ.
- (3) ベクトル \mathbf{b} のベクトル \mathbf{a} への射影を求めよ.
- (4) 外積 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を求めよ.
- (5) ベクトル \mathbf{a} とベクトル \mathbf{b} のなす角 θ の正弦, すなわち $\sin \theta$ を求めよ.
- (6) ベクトル \mathbf{c} , ベクトル \mathbf{d} を 2 辺とする平行四辺形の面積を S とすると,

$$S^2 = (\mathbf{c} \cdot \mathbf{c})(\mathbf{d} \cdot \mathbf{d}) - (\mathbf{c} \cdot \mathbf{d})^2$$

となることを示せ. 次に, ベクトル \mathbf{a} , ベクトル \mathbf{b} を 2 辺とする平行四辺形の面積を求めよ.

(島根大 2008) (m20085810)

0.57 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 1 & 0 & a \\ 2 & -4 & 4 \end{pmatrix}$ とする. 次の問いに答えよ.

(1) R^3 から R^3 への写像 f_A を

$$f_A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$$

と定義する. f_A は線形写像であることを示せ.

- (2) f_A が単射とならないような a の値を求めよ.
(3) f_A の像の次元は 2 以上であることを示せ.
(4) A は 2 を固有値としてもつことを示せ.
(5) A が 1 を固有値としてもつとき, 次の (a),(b) に答えよ.
(a) a の値を求めよ.
(b) A は対角化可能であることを示せ.

(島根大 2009) (m20095801)

0.58 (1) 関数 $f(x) = (x+1)e^{-2x}$ について, $f'(x)$ と $f''(x)$ を求めよ. また, 3 以上の整数 n に対して第 n 次導関数 $f^{(n)}(x)$ を求めよ.

(2) 関数 $y = x^x$ ($x > 0$) の極値を求めよ.

(3) 広義積分 $\int_0^{\infty} e^{-x} \sin x dx$ の値を求めよ.

(4) 曲線 $y = x \cos x$ ($0 \leq x \leq \frac{3\pi}{2}$) と x 軸とで囲まれた部分の面積を求めよ.

(島根大 2009) (m20095802)

0.59 (1) 次の極限值は存在するかどうか調べよ.

(a) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{\sin xy}{x^2 + y^2}$

(b) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{\sin xy}{\sqrt{x^2 + y^2}}$

(2) $f(x, y) = \tan^{-1} \frac{y}{x}$ とするとき, 次の問いに答えよ.

(a) f の 2 次偏導関数をすべて求めよ.

(b) $x = \sin(u+v)$, $y = \cos(u-v)$ とするとき, 偏導関数 f_u と f_v を求めよ.

(島根大 2009) (m20095803)

0.60 3 次元ベクトル全体のなすベクトル空間を R^3 とする,

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 2 \\ -3 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$$

とする. 線形写像 $f: R^3 \rightarrow R^3$ は, 次を満たすものとする.

$$f(\mathbf{v}_1) = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad f(\mathbf{v}_2) = \begin{pmatrix} 2 \\ -3 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad f(\mathbf{v}_3) = \begin{pmatrix} -1 \\ 3 \\ -4 \end{pmatrix}$$

このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\}$ は R^3 の基底であることを示せ.
(2) \mathbf{x} を $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ の 1 次結合で表せ.

- (3) $f(x)$ を求めよ.
 (4) f の像の 1 組の基底を求めよ.
 (5) f の核の次元を求めよ.
 (6) $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ -2 & -3 & 3 \\ 1 & -1 & -4 \end{pmatrix}$ は 0 を固有値としてもつことを示せ.

(島根大 2010) (m20105801)

- 0.61** (1) $\log(1+x)$ ($-1 < x < 1$) の第 n 次導関数を求めよ.
 (2) $\log(1+x)$ ($-1 < x < 1$) のマクローリン展開を求めよ.
 (3) $\log 2 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2^3} + \cdots + \frac{1}{n} \cdot \frac{1}{2^n} + \cdots$ を示せ.

(島根大 2010) (m20105802)

- 0.62** (1) $f(x, y) = \begin{cases} \frac{x^2 - y^2}{\sqrt{x^2 + y^2}} & ((x, y) \neq (0, 0)) \\ 0 & ((x, y) = (0, 0)) \end{cases}$ は原点 $(0, 0)$ で偏微分可能かどうか調べよ.
 (2) $f(x, y) = \begin{cases} \frac{x^3 - y^3}{\sqrt{x^2 + y^2}} & ((x, y) \neq (0, 0)) \\ 0 & ((x, y) = (0, 0)) \end{cases}$ は原点 $(0, 0)$ で全微分可能かどうか調べよ.
 (3) 関数 $f(x, y) = xy(x - y + 1)$ の極値を求めよ.

(島根大 2010) (m20105803)

- 0.63** 3次元ベクトル $\mathbf{a} = 4\mathbf{i} + 3\mathbf{j} - \mathbf{k}$ および $\mathbf{b} = 2\mathbf{i} - 6\mathbf{j} - 3\mathbf{k}$ に対し, $3\mathbf{a} + \mathbf{b}$ と \mathbf{a} との外積 $(3\mathbf{a} + \mathbf{b}) \times \mathbf{a}$ を計算せよ. ただし, $\mathbf{i}, \mathbf{j}, \mathbf{k}$ は, それぞれ直交座標系における x, y, z 方向の単位ベクトルである.

(島根大 2010) (m20105804)

- 0.64** 次の行列式の値を求めよ.

$$\begin{vmatrix} 0 & 2 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 3 & 4 \\ 0 & 0 & 5 & 6 \end{vmatrix}$$

(島根大 2010) (m20105805)

- 0.65** 次の連立 1 次方程式が自明な解以外の解をもつのは定数 a がどのような値のときか.

$$\begin{cases} (2-a)x + 3y = 0 \\ 3x + (2-a)y = 0 \end{cases}$$

(島根大 2010) (m20105806)

- 0.66** (1) 次の行列 A の固有値と, それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルを大きさが 1 になるように規格化すること.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$$

- (2) 設問 (1) の行列 A に対し, ${}^t P A P$ が対角行列となるような直交行列 P を求めよ. ただし, ${}^t P$ は P の転置行列を表す.

(島根大 2010) (m20105807)

- 0.67** (1) $f(x) = \sin^{-1} x$ ($-1 < x < 1$) とするとき, $f'(x)$, $f''(x)$, $f^{(3)}(x)$ を求めよ.

(2) 設問 (1) の結果を用いて $f(x)$ を x^3 の項まで $x = 0$ のまわりにおいてべき級数展開せよ.

(3) 設問 (2) の結果を用いて $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^{-1} x}{x}$ および $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^{-1} x - x}{x^3}$ の値を求めよ.

(島根大 2010) (m20105808)

0.68 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ -1 & 3 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$ について, 以下の問に答えよ.

(1) 行列 A の行列式を 1 列について余因子展開して求めよ.

(2) 行列 A の 3 つの列ベクトルは線形独立といえるか. その根拠と共に示せ.

(3) 行列 A の逆行列を求めよ.

(4) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル \mathbf{x}_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ.

(島根大 2010) (m20105809)

0.69 以下の問に答えよ.

(1) オペレーティングシステムとは何か, 100 字以上でまとめよ.

(2) 計算機を構成している要素には, 中央処理装置 (CPU), 主記憶装置, 制御装置, 入出力装置, 外部記憶装置がある. 計算機システムとしての能力を向上させるための方策を 3 つ挙げよ.

(3) ソースプログラム, オブジェクトプログラム, コンパイラという 3 つの用語を用いて, ひとつのまとまった文章を作りなさい.

(島根大 2010) (m20105810)

0.70 (1) 次の 2 進数を 10 進数へ変換せよ.

1101.1011

(2) 次の 10 進数を 2 進数へ変換せよ.

0.9

(3) 次の 8 ビットの 2 進数の 2 の補数を求めよ. ただし, 2 の補数は 8 ビットの 2 進数で表現せよ.

01011110

(4) 2 つの 10 進数 $x = 11$, $y = 13$ を 5 ビットの 2 進数へ変換し, 次の演算をせよ. ただし, 演算結果は 5 ビットの 2 進数で表現せよ.

(a) $x + y$ (b) $x - y$

(島根大 2010) (m20105811)

0.71 次の行列 A について以下の設問に答えよ. ただし, $0 < a < 1/2$ とする.

$$A = \begin{pmatrix} a & 1-a \\ 1-a & a \end{pmatrix}$$

(1) A^2 を計算せよ.

(2) $|A|$ を計算せよ.

(3) A^{-1} を求めよ.

(4) A の固有値と, それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルを大きさが 1 になるように規格化すること.

(5) A^{-1} , A^2 および A^n の固有値を求めよ. ただし, n は自然数とする.

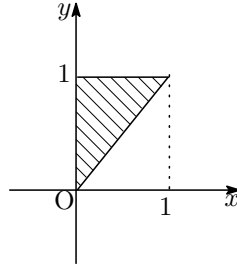
(6) A^n を求めよ.

(7) $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ.

(島根大 2010) (m20105812)

0.72 (1) $\int_a^1 x e^{-x^2} dx$ を計算せよ.

(2) 図1の斜線部で示すような, xy 平面上の領域を D とする. 領域 D における積分 $\iint_D e^{-y^2} dx dy$ を計算せよ.



(3) $\int_0^1 \left\{ \int_0^{\sqrt{x}} (x^2 + y^2) dy \right\} dx$ を計算せよ.

(島根大 2010) (m20105813)

0.73 以下の各設問に答えよ. ただし, x は実数とする.

(1) 関数 $f(x), g(x)$ を $f(x) = x - \tan^{-1} x, g(x) = x - x \sin x$ と定義する. 以下の問いに答えよ.

(a) 導関数 $f'(x)$, 第2次導関数 $f''(x)$ を求めよ.

(b) 導関数 $g'(x)$, 第2次導関数 $g''(x)$ を求めよ.

(c) $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{g(x)}$ の値を求めよ.

(2) 関数 $y(x)$ を $y(x) = (x^2 + 1)e^{-x}$ と定義する. 以下の問いに答えよ.

(a) 導関数 $y'(x)$, 第2次導関数 $y''(x)$ を求めよ.

(b) $\lim_{x \rightarrow \infty} y(x) = 0$ であることを示せ.

(c) $y'(x)$, および $y''(x)$ の符号を用いて, 関数 $y(x)$ の増減表を作成せよ. また, 関数 $y(x)$ のグラフの概形をかけ.

(島根大 2012) (m20125801)

0.74 3次正方行列 X を以下のように定義する.

$$X = \begin{bmatrix} x_{11} & -\sqrt{6} & 1 \\ \sqrt{3} & \sqrt{2} & \sqrt{3} \\ -1 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

以下の設問に答えよ. ただし, tX は X の転置行列を表す.

(1) $x_{11} = 1$ とする. 積 $X {}^tX$ を計算せよ.

(2) $x_{11} = 1$ とする. $(X {}^tX)^{-1}$ の行列式の値を求めよ.

(3) $x_{11} = 1$ とする. X の階数を求めよ.

(4) $x_{11} = 1$ とする. X^2 の行列式の値を求めよ.

(5) $x_{11} = -7$ とする. 以下の命題が真か偽かを示せ.

命題「任意の \mathbf{a} に対して, 方程式 $X\mathbf{y} = \mathbf{a}$ の解 \mathbf{y} が存在する.

ただし, 以下のように, \mathbf{a} と \mathbf{y} は3次元ベクトルとする.

$$\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{y} = \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{bmatrix}$$

0.75 次の行列式の値を求めよ.

$$\begin{vmatrix} 1 & 2 & 2 & 3 \\ 3 & 3 & 4 & 7 \\ 6 & 4 & 6 & 13 \\ 10 & 5 & 7 & 21 \end{vmatrix}$$

(島根大 2012) (m20125803)

0.76 次のベクトルの組 $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\}$ について, 以下の問いに答えよ.

$$\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 6 \end{pmatrix}$$

(1) $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ は 1 次独立であることを示せ.

(2) \mathbb{R}^3 のベクトル $\mathbf{w} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ を $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ の 1 次結合として表せ.

(島根大 2012) (m20125804)

0.77 写像 $f: \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$f\left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} ax^2 + 2y - 2z + w \\ x - y + z + bw + c - 2 \\ 2x + (d+1)yz - w \end{pmatrix}$$

で定める. このとき, f が線形写像になり, かつ核の次元が 2 となる a, b, c, d の値を求めよ.

(島根大 2012) (m20125805)

0.78 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ とするとき, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) A を直交行列を用いて対角化せよ.

(島根大 2012) (m20125806)

0.79 次の問いに答えよ. ただし, $\text{Arctan } x$ は $\tan x$ ($-\pi/2 < x < \pi/2$) の逆関数とする.

(1) $\text{Arctan } x$ の導関数と不定積分を求めよ.

(2) $n = 0, 1, 2, \dots$ に対して

$$I(n) = \int_0^1 \frac{x^{2n}}{1+x^2} dx$$

とおくとき, $I(n+1)$ を $I(n)$ を用いて表し, さらに $I(3)$ を計算せよ.

(3) $\int_0^1 x^5 \text{Arctan } x dx$ を計算せよ.

(4) $\int_0^1 x(\text{Arctan } x)^2 dx$ を計算せよ.

(島根大 2012) (m20125807)

0.80 次の問いに答えよ.

- (1) 関数 $f(x, y) = \begin{cases} \frac{\exp(x^3 - y^3) - 1}{x^2 + y^2} & ((x, y) \neq (0, 0)) \\ 0 & ((x, y) = (0, 0)) \end{cases}$ に対して, $f_x(0, 0)$ と $f_y(0, 0)$ を求めよ.
- (2) 関数 $f(x, y) = \frac{(x+1)^2(y+1)^2}{xy}$ ($xy \neq 0$) の極値を求めよ.

(島根大 2012) (m20125808)

0.81 次の (1), (2), (3) に答えよ. \mathbb{R}^n は n 次元ベクトルのなす実ベクトル空間を表すことにする.

- (1) (a) 「実ベクトル空間 V の n 個のベクトル v_1, \dots, v_n が V の基底である」ことの定義を述べよ.
 (b) 実ベクトル空間 V のベクトル v_1, v_2, v_3 が 1 次独立であるとき, v_1, v_2, v_3, v_4 が 1 次従属であるならば, v_4 が v_1, v_2, v_3 の 1 次結合で表せることを示せ.

- (2) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 8 & 2 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 3 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 写像 $f_A : \mathbb{R}^5 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $f_A(v) = Av$ ($v \in \mathbb{R}^5$) と定める. このとき,

- (a) 写像 f_A は線形写像であることを示せ.
 (b) f_A の核 $\ker f_A$ の基底を求めよ.

- (c) \mathbb{R}^5 の標準基底と \mathbb{R}^3 の基底 $\left\{ w_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}, w_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, w_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\}$ に関する f_A の表現行列を求めよ.

- (3) n 次元実正方行列 B に対して, 線形写像 $f_B : \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$ を $f_B(v) = Bv$ ($v \in \mathbb{R}^n$) と定める. このとき, f_B が全射であれば, B は正則行列であることを証明せよ.

(島根大 2013) (m20135801)

0.82 $f(x)$ は実数全体で定義された以下の条件 (*) を満たす関数とする.

$$(*) f''(x) = f(x), \quad f(0) = 1, \quad f'(0) = 0$$

次の問いに答えよ.

- (1) $(f(x))^2 - (f'(x))^2 = 1$ を証明せよ.
 (2) $f(x)$ を求めよ.
 (3) 関数 $f(x)$ と $f'(x)$ のグラフの概形をかけ.
 (4) 自然数 n に対し, $f^{(n)}(0)$ の値を求め, さらに $f(x)$ のマクローリン展開を求めよ.

(島根大 2013) (m20135802)

0.83 m, n は自然数とし,

$$I(m, n) = \iint_D (x+y)^{m-1} x^{n-1} y \, dx dy \quad D = \{(x, y) : x > 0, y > 0, x+y < 1\}$$

を定める. 次の問いに答えよ.

- (1) 次の変数変換を行うことによって, $I(m, n)$ を u と v についての重積分に書き直せ.

$$u = x + y, \quad v = \frac{y}{x}$$

- (2) 積分値 $I(m, n)$ を求めよ.

0.84 (3, 4) 型行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 & 2 \\ 1 & 1 & 8 & 4 \\ 2 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 写像 $f_A : \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $f_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ と定める. この

とき, 次の問いに答えよ.

- (1) f_A は線形写像であることを示せ.
- (2) f_A の核 $\text{Ker} f_A$ に属するベクトルをすべて求めよ.
- (3) f_A の像 $f_A(\mathbb{R}^4)$ の基底を求めよ.
- (4) $f_A(\mathbf{y}) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ を満たすベクトル \mathbf{y} をすべて求めよ. もしそのような \mathbf{y} が存在しない場合はその理由を述べよ.

(島根大 2014) (m20145801)

0.85 \mathbb{R} 上のベクトル空間の 4 つのベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ に対して, $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ が 1 次独立であり, かつ $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3, \mathbf{v}_4$ が 1 次従属であるとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) \mathbf{v}_4 が $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ の 1 次結合で表されることを示せ.
- (2) \mathbf{v}_4 が零ベクトルでないとき, $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ の中に 2 つのベクトル \mathbf{a}, \mathbf{b} が存在して, $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{v}_4 \rangle = \langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3 \rangle$ となることを示せ. ただし, $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}$ で張られる部分空間を $\langle \mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z} \rangle$ で表わす.

(島根大 2014) (m20145802)

0.86 次の問いに答えよ,

- (1) $(1+x)^{1/10}$ のマクローリン級数を x^3 の項まで求めよ.
- (2) $(1.2)^{1/10}$ の近似値を小数第 3 位まで正確に求めよ.

(島根大 2014) (m20145803)

0.87 次の問いに答えよ.

- (1) $I_n = \int_0^1 (\arcsin x)^n dx$ ($n \geq 0$) とおく. $t = \arcsin x$ とおいて I_n を t の積分で表わせ.
- (2) $n \geq 2$ のとき, I_n と I_{n-2} の関係を求めよ. さらに, I_2 を求めよ.

(島根大 2014) (m20145804)

0.88 次の問いに答えよ.

- (1) $0 < r_1 < r_2$ とし, $D_1 = \{(x, y) : r_1^2 \leq x^2 + y^2 \leq r_2^2\}$ と定める. このとき, 積分 $\iint_{D_1} \frac{1}{(x^2 + y^2)^\alpha} dx dy$ の値を求めよ.
- (2) $0 < r$ とし, $D_2 = \{(x, y) : 0 < x^2 + y^2 \leq r^2\}$ と定める. このとき, 広義積分 $\iint_{D_2} \frac{1}{(x^2 + y^2)^\alpha} dx dy$ が収束する α の範囲を求めよ.

(島根大 2014) (m20145805)

0.89 以下に現れる関数はすべて \mathbb{R}^2 上で C^1 級とする. 写像

$$f : \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2, \quad f(x, y) = (u(x, y), v(x, y))$$

と二変数関数 $g(u, v)$ の合成を $F = g \circ f$ と定める. このとき,

$$F(x, y) = (g \circ f)(x, y) = x$$

ならば, 以下の等式が成り立つことを証明せよ.

$$\begin{pmatrix} g_u & g_v \end{pmatrix} \begin{pmatrix} u_x & u_y \\ v_x & v_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(島根大 2014) (m20145806)

0.90 平面座標系 ($o-xy$) において, 曲線 C を $y = x^2 - 4x + 3$ とする. 以下の設問に答えよ.

- (1) 曲線 C と x 軸との交点の x 座標 x_1, x_2 ($x_1 > x_2$) を求めよ.
- (2) 曲線 C の頂点の座標 (x_0, y_0) を求めよ.
- (3) 曲線 C の概形を描き, 頂点及び x 軸との交点を図示せよ.
- (4) 点 $(x_1, 0)$ における接線の方程式を求めよ.
- (5) 曲線 C と x 軸の囲む面積を求めよ.

(島根大 2015) (m20155801)

0.91 次に示す連立方程式が与えられている時, 以下の設問に答えよ. ただし, c は定数である.

$$\begin{aligned} x_1 + x_2 + cx_3 &= 5 \\ x_1 + 2x_2 + x_3 &= 1 \\ 2x_1 + 5x_2 + 3x_3 &= 4 \end{aligned}$$

- (1) 上の方程式を $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ のように表現する場合に, 行列 A と \mathbf{b} を示せ. ただし, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}$ とする.
- (2) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (3) $c = 0$ の時, 以下の問いに答えよ.
 - (a) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
 - (b) 問い (a) で求めた固有値の最大なものに関する固有ベクトルを求めよ.

(島根大 2015) (m20155802)

0.92 (1) 次の行列 A と行列 A' の階数を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & -1 & 3 \\ 3 & 0 & 4 \end{pmatrix}, \quad A' = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 5 \\ 2 & -1 & 3 & 4a + 13 \\ 3 & 0 & 4 & a \end{pmatrix}$$

(2) 連立 1 次方程式

$$\begin{cases} x + y + z = 5 \\ 2x - y + 3z = 4a + 13 \\ 3x + 4z = a \end{cases}$$

の解が存在するための必要十分条件を (1) で求めた階数を用いて述べよ. さらに, 解が存在するような a の値をすべて求めよ.

(3) (2) の連立 1 次方程式が解をもつとき, その一般解を求めよ.

(島根大 2015) (m20155803)

0.93 行列 $B = \begin{bmatrix} 2 & b & 3 \\ 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & b \end{bmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 B の余因子行列を求めよ.

(2) B が正則であるための b の条件を求めよ. さらに B が正則であるとき, B の逆行列を求めよ.

(島根大 2015) (m20155804)

0.94 次の問いにおいて V は \mathbb{R} 上のベクトル空間, $f: V \rightarrow V$ は線形写像とする. \mathbb{R} は実数全体を表すものとする.

(1) ベクトル空間 V の次元 $\dim(V)$ の定義を述べよ.

(2) $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ をベクトル空間 V のベクトルとする. このとき, $f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_n)$ が 1 次独立であるならば, $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ は 1 次独立であることを示せ.

(3) 不等式 $\dim(V) \leq \dim(f(V)) + \dim(\text{Ker } f)$ を示せ. ただし, $\text{Ker } f$ は f の核である.

(島根大 2015) (m20155805)

0.95 関数 $f(x) = \arcsin x$ ($-1, x < 1, -\pi/2 < y < \pi/2$) に関する次の問いに答えよ.

(1) 逆関数の微分法を用いて $f'(x) = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}$ を証明せよ.

(2) $y = f(x)$ のグラフの概形をかけ.

(3) $f^{(n)}(x)$ を $f(x)$ の第 n 次導関数とする. ただし $f^{(0)}(x) = f(x)$ である. このとき, 0 以上の整数 n に対し,

$$(1-x^2)f^{(n+2)}(x) - (1+2n)xf^{(n+1)}(x) - n^2f^{(n)}(x) = 0$$

が成り立つことを証明せよ.

(4) $f(x) = \arcsin x$ のマクローリン展開を 5 次の項まで求めよ.

(島根大 2015) (m20155806)

0.96 $D = \{(x, y) : 5x^2 - 6xy + 5y^2 \leq 4, y \geq x\}$ とする.

(1) 変数変換 $x = u - \frac{v}{2}, y = u + \frac{v}{2}$ を考える. この変換により, D にうつされる (u, v) 平面の領域を求めよ.

(2) $\iint_D \exp\left(\frac{5x^2 - 6xy + 5y^2}{4}\right) dx dy$ の値を求めよ. ただし $\exp(x) = e^x$ である.

(島根大 2015) (m20155807)

0.97 (1) 3 次元実ベクトル全体からなるベクトル空間 \mathbb{R}^3 の 4 つのベクトルを

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 4 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_4 = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \\ 6 \end{bmatrix}$$

とする. このとき,

(ア) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ は 1 次独立であることを示せ.

(イ) \mathbf{a}_4 を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ の 1 次結合で表せ.

(2) 実数上のベクトル空間 V の基底を $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ とする. 線形写像 $f: V \rightarrow V$ が次を満たすとき,

$$\begin{cases} f(\mathbf{v}_1) = \mathbf{v}_1 + 2\mathbf{v}_2 + \mathbf{v}_3 \\ f(\mathbf{v}_2) = 2\mathbf{v}_1 + \mathbf{v}_2 + \mathbf{v}_3 \\ f(\mathbf{v}_3) = 4\mathbf{v}_1 + 2\mathbf{v}_2 + 2\mathbf{v}_3 \end{cases}$$

このとき,

(ウ) f の像 $f(V)$ の次元を求めよ.

(エ) $f(W) = W$ を満たす V の 1 次元の部分空間 W をすべて求めよ.

(島根大 2016) (m20165801)

0.98 4 次実正方行列 B のすべての固有値は 0 であるとする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) B^4 は零行列であることを示せ.

4 次元実ベクトル空間全体からなるベクトル空間を \mathbb{R}^4 とする. $c \in \mathbb{R}^4$ は $B^3c \neq 0$ を満たすとし, $P = [c \ Bc \ B^2c \ B^3c]$ を c, Bc, B^2c, B^3c をそれぞれ第 1, 第 2, 第 3, 第 4 列にもつ 4 次実正方行列とする.

(2) c, Bc, B^2c, B^3c は \mathbb{R}^4 の基底であることを示せ.

(3) P は正則行列であることを示し, $P^{-1}BP$ を求めよ.

(島根大 2016) (m20165802)

0.99 自然数 $n = 1, 2, \dots$ に対して, 関数 $f_n(x)$ を

$$f_n(x) = n^2 x^{n+1} \log x \quad (x > 0)$$

と定める. 次の問いに答えよ.

(1) $f_n(x)$ の最小値を求めよ.

(2) 広義積分 $\int_0^1 f_n(x) dx$ を計算せよ.

(3) $0 < x \leq 1$ を満たす各 x に対して $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x)$ を求めよ. さらに $f(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x)$ とするとき, 次の等式が成り立つかどうかを調べよ.

$$\int_0^1 f(x) dx = \lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^1 f_n(x) dx$$

(島根大 2016) (m20165803)

0.100 (1) $R > 0$ とする. $\Omega(R) = \{(x, y) \mid x^2 + y^2 \leq R^2, 0 \leq y \leq x\}$ とするとき,

重積分 $\iint_{\Omega(R)} \frac{1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dx dy$ を計算せよ.

(2) $\lim_{R \rightarrow \infty} \int_0^R \left(\int_0^x \frac{1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dy \right) dx$ を求めよ.

(3) α を定数とし, $(x, y) \neq (0, 0)$ に対して $f(x, y) = (x^2 + y^2)^{\alpha/2}$ と定める. $\frac{\partial^2 f}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 f}{\partial y^2}$ を求めよ.

(島根大 2016) (m20165804)

0.101 次の 3 次の正方行列 A について, 以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (2) 設問 (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ. ただし, 固有ベクトルは大きさが 1 となるように正規化 (規格化) すること.
- (3) 設問 (2) で求めた固有ベクトルを用いて, 行列 A を対角化せよ.
- (4) A^{12} を計算せよ.

(島根大 2016) (m20165805)

0.102 微分方程式 $y = x \frac{dy}{dx} + 3 \cdot \sqrt{1 + \left(\frac{dy}{dx}\right)^2}$ について, 以下の設問に答えよ.

- (1) $\frac{dy}{dx} = p$ と置き, 置き換えた式を示せ.
- (2) 設問 (1) の結果を x に関して微分せよ.
- (3) 設問 (2) の結果から p, x のみを含む微分方程式を示せ.
- (4) $\frac{dp}{dx} \neq 0$ のとき x を p を用いて表せ.
- (5) $\frac{dp}{dx} \neq 0$ のとき y を p を用いて表せ.
- (6) $\frac{dp}{dx} \neq 0$ のとき x と y はある 1 つの半円上にあることを示せ. また, その半径を示せ.

(島根大 2016) (m20165806)

0.103 以下の設問に答えよ. ただし, $T (T > 0)$ および ϕ は定数である.

- (1) 次の定積分を計算せよ. $\frac{1}{T} \int_0^{\frac{T}{2}} \sin\left(\frac{2\pi}{T}t\right) dt$
- (2) 次の定積分を計算せよ. $\frac{1}{T} \int_0^T \left[\sin\left(\frac{2\pi}{T}t + \phi\right)\right]^2 dt$
- (3) 次式が成り立つことを示せ. $\int_0^T \sin\left(\frac{2\pi}{T}t\right) \sin\left(\frac{4\pi}{T}t\right) dt = 0$
- (4) 次の定積分を計算せよ. $\frac{1}{T} \int_0^T \left[\cos\left(\frac{2\pi}{T}t\right) + 3 \cos\left(\frac{2\pi}{T}t + \frac{\pi}{3}\right)\right]^2 dt$

(島根大 2017) (m20175801)

0.104 次の微分方程式について, 以下の設問に答えよ.

$$\frac{d\mathbf{x}(t)}{dt} = A\mathbf{x}(t)$$

ただし, $\mathbf{x}(t) = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{bmatrix}$, $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x}(0) = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ である.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 と固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ を求めよ. ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとして求めること.
- (2) 設問 (1) で求めた固有ベクトルが互いに直交していることを示せ.
- (3) 固有ベクトルからなる行列 $T = [\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2]$ の逆行列 T^{-1} を求めよ.
- (4) $\mathbf{x}(t) = T\mathbf{y}(t)$ の変数変換を行い, $\mathbf{y}(t)$ に関する微分方程式を導け.
- (5) 設問 (4) で求めた $\mathbf{y}(t)$ に関する微分方程式を解け.
- (6) 設問 (5) で求めた解 $\mathbf{y}(t)$ を用い, 微分方程式の解 $\mathbf{x}(t)$ を求めよ.

(島根大 2017) (m20175802)

0.105 $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -3 \\ -1 & 5 & -1 \\ -1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を求めよ.

(島根大 2017) (m20175803)

0.106 $\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ は \mathbb{R}^3 の基底であることを示せ.
- (2) $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$f(\mathbf{v}_1) = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}, \quad f(\mathbf{v}_2) = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad f(\mathbf{v}_3) = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

となるような線形写像とする, f の核 $\text{Ker } f$ と像 $\text{Im } f$ の次元を求めよ.

(島根大 2017) (m20175804)

0.107 $W = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid 2x - 3y + z = 0 \right\}$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) W は \mathbb{R}^3 の部分空間であることを示せ.
- (2) W の次元を求めよ.
- (3) \mathbf{v} を W に属さない \mathbb{R}^3 のベクトルとし, $U = \{k\mathbf{v} \mid k \in \mathbb{R}\}$ とする. このとき, 次が成り立つことを示せ.

$$W + U = \mathbb{R}^3, \quad W \cap U = \{0\}$$

ただし, $W + U = \{\mathbf{w} + \mathbf{u} \mid \mathbf{w} \in W, \mathbf{u} \in U\}$ である.

(島根大 2017) (m20175805)

0.108 閉区間 $[a, b]$ で連続で, 开区間 (a, b) で微分可能である関数 $f(x)$ に対して, 次の命題 (平均値の定理) が成り立つ.

ある $c(a < c < b)$ が存在して

$$(*) \quad \frac{f(b) - f(a)}{b - a} = f'(c)$$

次の問いに答えよ.

- (1) $f(x) = x^2$ のとき, 区間 (a, b) において, $(*)$ が成り立つような c を求めよ.
- (2) 閉区間 $[a, b]$ で連続かつ, 开区間 (a, b) で 2 回微分可能でつねに $f''(x) > 0$ を満たす関数 $f(x)$ を考える. このとき, 区間 (a, b) において関数

$$F(x) = \frac{f(b)(x - a) + f(a)(b - x)}{b - a} - f(x)$$

はつねに正であり, かつ $F(x)$ の極大値が区間 (a, b) において, ただ一つだけ存在することを示せ.

(3) $b > a > 1$ とする. 次の不等式が成り立つことを示せ.

$$\frac{b^2 - a^2}{2ab} > \log \frac{b}{a}$$

(島根大 2017) (m20175806)

0.109 (1) $D = \{(x, y) : 0 < x, 0 < y, x + y < 1\}$ とする. 変数変換 $x = u - uv, y = uv$ により, D にうつされる (u, v) 平面の領域を求めよ.

(2) D は問 (1) と同じとする. 重積分 $\iint_D e^{\frac{x-y}{x+y}} dx dy$ を計算せよ.

(島根大 2017) (m20175807)

0.110 関数 $f(x, y) = x^2 + xy + y^2 + 3x + 6y$ の極値を求めよ.

(島根大 2017) (m20175808)

0.111 xy 座標平面において放物線を $y = \frac{1}{3}x^2$ とし, 直線を $y = x$ とする. 以下の設問に答えよ.

- (1) 放物線と直線の二つの交点 $A(x_1, y_1)$ と $B(x_2, y_2)$ の座標を求めよ. ただし, $x_2 > x_1$ とする.
- (2) 点 $A(x_1, y_1)$ から点 $B(x_2, y_2)$ までの放物線の長さ L を求める式を示せ. すなわち, 式だけを示せばよく, 値を求める必要はない.
- (3) 点 $B(x_2, y_2)$ における放物線の接線と法線の方程式を求めよ.
- (4) 放物線と直線で囲まれた部分の面積 S を求めよ.
- (5) 放物線と直線で囲まれた部分が, x 軸の周りに 1 回転してできる回転体の体積 V を求めよ.

(島根大 2018) (m20185801)

0.112 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}$, $B = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ -1 & 1 \end{bmatrix}$ とするとき, 次の設問に答えよ.

- (1) AB, BA を計算し, $AB = BA$ が成立しないことを示せ.
- (2) 行列 A, B が正則であるかどうかを調べ, 正則ならば逆行列を求めよ.
- (3) 行列 A と 2 行 2 列の零行列 O に対して, $AX = XA = O$ をみたす O でない行列 X を一つ見つけよ.
- (4) 次の条件をみたすような行列 $C = \begin{bmatrix} p & q \\ r & s \end{bmatrix}$ を求めよ.

$$C \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 4 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad C \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}$$

- (5) 点 (x, y) が直線 $x - y = 1$ 上を動くとき, $\begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix} = B \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ により定義される点 (X, Y) の軌跡を求めよ.

(島根大 2018) (m20185802)

0.113 正則行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix}$ の逆行列 A^{-1} を求めよ.

(島根大 2018) (m20185803)

0.114 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & -2 & -1 \\ 1 & 2 & 3 & -4 & -4 \\ 3 & 0 & -3 & 1 & 7 \\ 0 & -1 & -2 & -1 & 0 \end{bmatrix}$ とする. 線形写像 $f_A : \mathbb{R}^5 \rightarrow \mathbb{R}^4$ を $f_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ と定める. また, $A = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4, \mathbf{a}_5]$ を A の列ベクトルへの分割とする. すなわち,

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 3 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ -3 \\ -2 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_4 = \begin{bmatrix} -2 \\ -4 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix}, \mathbf{a}_5 = \begin{bmatrix} -1 \\ -4 \\ 7 \\ 0 \end{bmatrix}$$

とする. $W = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4, \mathbf{a}_5 \rangle$ を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4, \mathbf{a}_5$ で張られる \mathbb{R}^4 の部分空間とする. 次の問いに答えよ.

- (1) $f_A(\mathbb{R}^5) = W = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4, \mathbf{a}_5 \rangle$ となることを示せ.
- (2) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4, \mathbf{a}_5$ の中から, W を生成する最小個数のベクトルの組を 1 組求めよ. また, W の次元を述べよ.
- (3) f_A の核 $\text{Ker } f_A$ の基底を 1 組求めよ.

(島根大 2018) (m20185804)

0.115 V, W を \mathbb{R} 上のベクトル空間とし, V_1, V_2 を V の部分空間とする. また f を V から W への線形写像とする. 次の問いに答えよ.

- (1) 線形写像 f は V の零ベクトル 0_V を W の零ベクトル 0_W に写すことを示せ.
- (2) f の像 $\text{Im } f$ は W の部分空間であることを示せ.
- (3) $V_1 \cap V_2$ は V の部分空間であることを示せ.

(島根大 2018) (m20185805)

0.116 $f(x) = -\log \cos x$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) $f(x)$ のマクローリン展開を 2 次の項まで求めよ.
- (2) $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{x^2}{f(x)}$ を求めよ.
- (3) $-\pi/2 < x < \pi/2$ のとき, $f(x) \geq x^2/2$ であることを示せ.
- (4) 曲線 $y = f(x)$ の, $0 \leq x \leq \pi/3$ の部分の長さを求めよ.

(島根大 2018) (m20185806)

0.117 $z = f(x, y), x = \frac{1}{2}(u - v), y = \frac{1}{2}(u + v)$ とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\frac{\partial z}{\partial u}$ と $\frac{\partial z}{\partial v}$ を, $\frac{\partial z}{\partial x}$ と $\frac{\partial z}{\partial y}$ を用いて表せ.
- (2) $\frac{\partial z}{\partial x} - \frac{\partial z}{\partial y} = 0$ ならば, 1 変数関数 g が存在して $z = g(x + y)$ と表せることを示せ.

(島根大 2018) (m20185807)

0.118 $D = \{(x, y) \mid 0 \leq x - y \leq 1, 0 \leq x + y \leq \pi\}$ とするとき, 重積分

$$\iint_D (x - y) \cos(x^2 - y^2) dx dy$$

の値を求めよ.

(島根大 2018) (m20185808)

0.119 平面直交座標系 $(O - xy)$ において曲線 C を $Y = x^3 - 2x^2 + \frac{3}{4}x$ とする. 以下の設問に答えよ.

- (1) 曲線 C と x 軸の交点は 3 つあるが, 1 つは原点 $O(0, 0)$ である. 残りの 2 つの点を $A(x_1, y_1)$, $B(x_2, y_2)$ とするとき, 点 $A(x_1, y_1)$ および点 $B(x_2, y_2)$ の座標を求めよ. ただし, $x_1 < x_2$ とする.
- (2) 原点を通り曲線 C と接する接線は 2 本ある. この 2 本の接線を l_1, l_2 とし, 接線 l_1 と曲線 C の接点を $Q(x_3, y_3)$, 接線 l_2 と曲線 C の接点を $R(x_4, y_4)$ とする. ただし, $x_3 < x_4$ とする. このとき, 接線 l_1, l_2 の方程式および接点 $Q(x_3, y_3)$, $R(x_4, y_4)$ の座標をそれぞれ求めよ.
- (3) 接線 l_1 と曲線 C の交点 $S(x_5, y_5)$ の座標を求めよ. ただし, S は接点 Q 以外の点とする.
- (4) 接線 l_1 上の線分 QS , 接線 l_2 上の線分 OR および曲線 C 上の曲線 RBS で囲まれる領域の面積を求めよ.

(島根大 2019) (m20195801)

0.120 次の 3 行 3 列の正方行列 A について, 以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 0 & 1 \\ 0 & -2 & 0 \\ 1 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の対角成分の和 (トレース) を求めよ.
- (2) $\vec{a} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ が行列 A の固有ベクトルであることを確認し, 対応する固有値を求めよ.
- (3) 行列 A の他の 2 つの固有ベクトル \vec{b} と \vec{c} , およびそれらに対応する固有値を求めよ. ただし, 固有ベクトルは正規化 (規格化) し, 固有値の小さい方の固有ベクトルを \vec{b} とすること.
- (4) 行列 A の 3 つの固有値の和を求めよ.
- (5) 行列 A の 3 つの固有ベクトル \vec{a}, \vec{b} と \vec{c} から 3 行 3 列の正方行列 $P = [\vec{a} \ \vec{b} \ \vec{c}]$ を作り, その逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (6) 3 行 3 列の正方行列 $L = P^{-1}AP$ を求めよ.
- (7) 行列 L のトレースを求めよ.
- (8) 行列 P と行列 L を用いて, 行列 A^4 を求めよ.
- (9) 行列 A^5 のトレースを求めよ.

(島根大 2019) (m20195802)

0.121 V, U を \mathbb{R} 上のベクトル空間とし, f を V から U への線形写像とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $f(V) = \{f(\mathbf{v}) \mid \mathbf{v} \in V\}$ は U の部分空間であることを示せ.
- (2) f は単射であるとする. このとき,
 - (a) V のベクトル $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k$ が 1 次独立であるなら, $f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_k)$ も 1 次独立であることを示せ.
 - (b) $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_k$ が V の基底であっても $f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_k)$ は U の基底であるとは限らないことを示せ.

(島根大 2019) (m20195803)

0.122 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & -1 \\ -1 & -1 & 1 \\ 3 & 1 & -2 \end{pmatrix}$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) A の行列式の値を求めよ.
- (2) A の階数を求めよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (4) \mathbb{R}^3 から \mathbb{R}^3 への写像 f を次のように定める.

$$f\left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} 2x - z \\ -x - y + z \\ 3x + y - 2z \end{pmatrix}$$

- (a) f は線形写像であることを示せ.
- (b) $f(\mathbb{R}^3)$ の一組の基底を求めよ.

(島根大 2019) (m20195804)

0.123 曲線 $g(x) = e^x(2x^2 - 11x + 16)$ の増減と凹凸を調べ、グラフの概形を描け.

(島根大 2019) (m20195805)

0.124 (1) $f(x)$ は $(-\infty, +\infty)$ で定義された連続関数とする. $F(x) = \int_{-x}^x f(t)dt$ とおくとき、導関数 $F'(x)$ を $f(x)$ を用いて表せ.

(2) $f(x)$ は $(-\infty, +\infty)$ で定義された下に凸な連続関数とする. このとき、すべての $x > 0$ に対して次の不等式が成り立つことを示せ.

$$2xf(0) \leq \int_{-x}^x f(t)dt$$

(島根大 2019) (m20195806)

0.125 $f(x, y) = axy - x^3 - y^3$ とする. ただし、 $a > 0$ である. $f(x, y)$ の極値が 1 になるときの a の値を求めよ.

(島根大 2019) (m20195807)

0.126 $g(x)$ は $0 < \alpha \leq x \leq \beta$ で連続であり、

$$D = \{(x, y) \mid 0 \leq x, 0 \leq y, \alpha \leq x + y \leq \beta\}$$

とする. このとき、

$$\iint_D g(x+y)dxdy = \int_{\alpha}^{\beta} xg(x)dx$$

となることを証明せよ.

(島根大 2019) (m20195808)

0.127 次の微分方程式について、以下の設問に答えよ.

$$\frac{d^2f(x)}{dx^2} + 2\frac{df(x)}{dx} - 8f(x) + g(x) = 0$$

- (1) 関数 $g(x) = 0$ の場合において、微分方程式を満たす関数 $f(x)$ の一般解を求めよ.
- (2) 関数 $g(x) = -\frac{1}{2}e^{-x}$ の場合において、微分方程式を満たす関数 $f(x)$ の一般解を求めよ.
- (3) 設問 (2) において、 $x = 0$ のときの関数 $f(x)$ およびその 1 階導関数 $f'(x)$ の値がそれぞれ次のように与えられたとき、関数 $f(x)$ を求めよ.

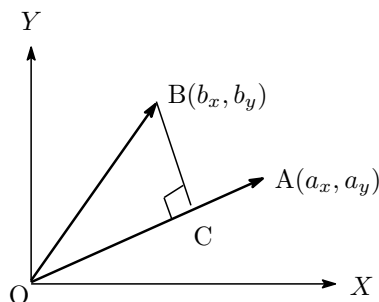
$$f(0) = -\frac{1}{18}, f'(0) = \frac{13}{18}$$

(4) 設問 (3) において求めた関数 $f(x)$ を x の 2 次の項までマクローリン展開せよ.

(島根大 2020) (m20205801)

0.128 下図に示すように, XY 平面上の座標 (a_x, a_y) に点 A が, 座標 (b_x, b_y) に点 B がある. 点 B から線分 \overline{OA} に対して垂線を引き, 垂線と線分 \overline{OA} との交点を点 C とする. 原点 O から点 A までのベクトル \overrightarrow{OA} と, 原点 O から点 B までのベクトル \overrightarrow{OB} は, X, Y 軸方向の単位ベクトル i, j を用いてそれぞれ次式のように表すことができる. 以下の設問に答えよ.

$$\overrightarrow{OA} = a_x i + a_y j, \quad \overrightarrow{OB} = b_x i + b_y j$$



- (1) ベクトル \overrightarrow{OA} とベクトル \overrightarrow{OB} の内積を求めよ.
- (2) 線分 \overline{OC} の長さ l を求めよ.
- (3) ベクトル \overrightarrow{OC} を求めよ.
- (4) ベクトル \overrightarrow{CB} を求めよ.
- (5) ベクトル \overrightarrow{CB} とベクトル \overrightarrow{OA} が直交していることを計算により示せ.
- (6) ベクトル $\overrightarrow{OP} = A \overrightarrow{OA}$ となる点 P がある. ここで, 行列 A は以下で与えられるものとする. ベクトル \overrightarrow{OA} をベクトル \overrightarrow{OP} を用いて表せ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$$

- (7) 設問 (6) において, $\overrightarrow{OP} = k \overrightarrow{OA}$ を満たす定数 k が存在するとき, その k を求めよ. ただし, ベクトル $\overrightarrow{OA} \neq \mathbf{0}$ とする.

(島根大 2020) (m20205802)

0.129 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 1 & 3 & 2 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) A^n を求めよ.

(島根大 2020) (m20205803)

0.130 $M(3, \mathbb{R})$ を 3 次実正方行列全体とする. また,

$$W = \{X \in M(3, \mathbb{R}) \mid \text{tr}(X) = 0\}$$

とする. ここで, $\text{tr}(X)$ は X のトレースである. すなわち, $X = (x_{ij})$ とすると, $\text{tr}(X) = x_{11} + x_{22} + x_{33}$ である. 次の問いに答えよ.

- (1) W は $M(3, \mathbb{R})$ の部分空間であることを示せ.
- (2) W の基底を 1 組求め, その理由を述べよ.

0.131 a を実数, $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & a \\ 1 & a & 1 \\ a & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とする. 線形写像 $f : \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$f(X) = AX$$

と定める. f の核を $\text{Ker}f$, 像を $\text{Im}f$ で表す. 必要なら a による場合分けを行い, それぞれの場合に $\text{Ker}f, \text{Im}f$ の次元を求めよ. さらに $\text{Ker}f, \text{Im}f$ の基底をそれぞれ 1 組ずつ求めよ.

(島根大 2020) (m20205805)

0.132 $\text{Sin}^{-1}x$ ($-1 < x < 1$) を $\sin x$ の逆関数とし, $f(x) = \sin(2\text{Sin}^{-1}x)$ とおく. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) $y = f(x)$ は次の微分方程式をみたすことを示せ.

$$(1 - x^2)y'' - xy' + 4y = 0$$

(2) $y = f(x)$ に対して, $(1 - x^2)^2 y''' + p(x)y' + q(x)y = 0$ が成り立つような x の多項式 $p(x), q(x)$ を 1 組求めよ.

(3) $f(x)$ の増減を調べ, $f(x)$ が最大値をとる x の値と最小値をとる x の値をそれぞれ求めよ.

(4) 次の定積分を計算せよ.

$$\int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \frac{x}{\sqrt{1-x^2}} \text{Sin}^{-1}x \, dx$$

(島根大 2020) (m20205806)

0.133 $f(x, y) = \frac{4}{(2 + x^2 + y)^2}$ とする. 次の問いに答えよ.

(1) $f(x, y)$ の偏導関数を求めよ.

(2) 点 $P(1, -1, 1)$ における, 曲面 $z = f(x, y)$ の接平面の方程式を求めよ.

(3) $a > 0$ に対して, $D(a) = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq a, 0 \leq y \leq x^2\}$ とおく.

2重積分 $I(a) = \iint_{D(a)} f(x, y) \, dx dy$ を計算せよ. さらに $\lim_{a \rightarrow \infty} I(a)$ を求めよ.

(島根大 2020) (m20205807)